綱　領

1. われわれは、社会正義に立脚した良識ある労働運動を通じて吾々の権利を守り、生活の安定と向上をはかる。
2. われわれは、常に暴力と独裁を排し自由にして明朗なる民主的労働組合としての健全なる発展を期する。
3. われわれは、赤十字の民主化と近代化を促進することによって、その人道的任務の達成に寄与する。

日赤新労

平成28年
1月1日
発　行
第231号

発　行　所
日本赤十字新労働組合連合会
（日赤新労）
東京都港区芝大門1-16-11茶乃木ビル5F
TEL（03）3433-3028
FAX（03）3432-4560
Eメール　shinro@shinro.org
ホームページ http://www.shinro.org/
発行責任者　山本俊一

平成27年度

第三回中央委員会開催
―次年度運動方針案 要求書案等を慎重審議―

十二月十二日、十三日の両日、水の都・広島市において平成二十七年度第三回中央委員会が開催された。

「ワークピア広島」を会場に行われた会議には、全国加盟単組より中央委員及びオブザーバー等八十二名の参加者を得て、議題の平成二十八年度運動方針案や要求書案等について慎重な審議が行われた。

第三回中央委員会は、開会のことばの後に資格審査・成立確認が行われ、議長に高橋佐和子氏（岡山日赤）、副議長に鬼塚俊行氏（嘉麻日赤）、書記に斎藤知秀氏（足利日赤）が選出された。審議に先立ち秋友中央執行委員長が挨拶に立ち、次のように述べた。

「二〇一五年賃上げ闘争は、要求書の三・〇%を下回る一・九八%、七千二百六十一円で決着がついた。本部は第二回中央委員会以降も更なる上乗せ交渉を行ったが、本社回答が二年連続のベースアップであり、全職員にベースアップがなされたとの判断から、妥結に至った。

また、冬のボーナスにおいて、本社は支給額を昨年より一割アップの二二・五割を支給することとした。しかし、経営の苦しい病院施設においては、その額に達せずに妥結している施設もあるように聞いている。今年度第四回団体交渉の本社回答において、平成二十六年度医療事業特別会計並びに血液事業特別会計は大幅な赤字決算になったとの報告を受けているが、これは退職給付債務の変更という特殊な要因が存在するものの、人件費の増加が赤字の要因であるとしている。そのような中でのベースアップ及びボーナスの増額は人件費の増額で更なる赤字を生み、来年度の交渉が難航することも懸念される。

我々を取り巻く環境は万全とは言えないところだが、今中央委員会は、来年度の日赤新労の方向性を決める大事な会議なので、皆様には慎重かつ活発な議論をお願いしたい。」

なお、十二日午前には週休二日制推進委員会が開催され、未実施施設のうち五単組十名が参加して、週休二日制に向けた活動及び進捗状況が報告された。

■報告事項■

一、各部報告

【組織部】

○清水赤十字病院施設訪問及び内部強化
○那須赤十字病院単組研修会に出席
○福井県赤十字血液センター施設訪問及び内部強化
○芳賀赤十字病院単組研修会に出席
○山形県支部職組と懇談会を開催

【教宣部】

○初心者研修会の開催
○年末手当交渉のための宣伝ビラ・ポスターの作成

【調査部】

○平成二十七年度調査結果の集計・発送
○年末一時金等の調査実施

二、一般経過報告

平成二十七年度給与改定等の交渉経過を中心に報告が行われ、血液センターにおけるボーナス交渉、医療職（二）表中六年制卒の昇格基準の見直し等について質疑が行われたのち、賛成多数で承認された。

■審議事項■

一、平成二十八年度運動方針案について

各ブロック会議等で検討された修正箇所について審議が行われ、一部修正の後賛成多数で承認された。なお、従来どおり、今後の国内外の動きや諸集計結果に対応して、一部については定期大会までに修正することが了承された。

スローガン、闘争方針案については、全会一致で原案どおり承認された。

二、要求書案について

基本賃金の引上げについては、賛成多数で定昇込み三・〇%（一万千円）と決定された。

三、予算案について

本部会計より平成二十八年度予算計上について説明があり、賛成多数で承認された。ただし、今年度会計はまだ執行中なので、来年度予算枠は今年度末の決算後に若干修正される。

四、本部役員について

役員詮衡委員長の松本良樹氏（今津日赤）より、中央委員会に先立って開催された役員詮衡委員会の報告が行われた。現本部役員の中から退任の意向が示されており、主要ポストの人選にかなり難航していることから、第五五回定期全国大会に支障のないよう、場合によっては臨時の役員詮衡委員会を開催することの提案が行われ、賛成多数で承認された。

五、大会運営について

第五五回定期全国大会開催にあたり、日程、大会役員等の確認が行われた。

六、その他

○週休二日制について

午前中に開催された週休二日制推進委員会より、各単組の状況報告あり、出席五単組のうち一単組が、平成二十九年より閉庁方式の週休二日制導入を施設から提案があったことが報告された。

年頭にあたって

中央執行委員長　秋友信男

謹んで新年のお慶びを申し上げます。組合員の皆様には、幸多き新春をお迎えのことと存じます。

今年度は昨年度に引き続きベースアップが実現した年となりました。この度の改定では、全職員が対象になったことは喜ばしいことであります。また、同じく冬期期末・勤勉手当は、六年ぶりに一・五割上がった昨年度に続き、今年度も一割上がった額の妥結ができて喜んでいる組合員も多いかと思います。しかしながら、平成二十六年度において日本赤十字社医療施設の会計単位である九十病院の決算状況は、三分の二に当たる六十病院が赤字決算となり、給与の資金繰りにも窮する状況にあります。また、血液事業特別会計においても、広域運営の開始に伴う人件費及び経費の増加等の影響を受け、赤字となっている状況であります。病院施設におきましては、医師・看護師不足は個々の施設だけでは解決できない状況にある上に、来年度改定される平成二十八年度診療報酬改定もマイナス改定になるとの予測もあって、更に赤字幅が増加することにより、ボーナス交渉への影響が懸念されます。

さて、わが国の経済を見ますと回復基調が続いており、内閣府の月例報告におきましても、「緩やかな回復基調」の言葉が一年以上続いていて、「デフレ」の言葉を忘れかけております。経団連の榊原会長も二十八年の春闘を前にして賃上げについては容認していく方針を示しており、三年続けてのベースアップも期待できるところです。

組合にとっては追い風ムードで歓迎すべきでしょうが、事業運営が年々厳しさを増している日本赤十字社各施設におきましては、益々職員一丸となった取組みが必要となります。労働組合対経営側という旧来の対峙から、新労のモットーとする労使協調を具体的に事業運営の中に活かしていく時ではないかと思います。また、真の労使協調とは、法令遵守が確立された上での業務遂行の協調であり、共存繁栄が求められます。施設の繁栄なくしては組合も前進できません。

我々日赤新労は、社内規則の遵守と確実な規則の遂行の両立を求め、秩序ある組合活動を展開していかなければなりません。ここでもう一度、組合の存在意義を見つめ直し、組合活動の原点を考え直しましょう。そして、それが組織の拡大に結びつくことだと私は確信しております。

本年も、組合員一人一人の生活の安定と働きやすい職場環境を目指し、皆様と共に手を携えて活動し、飛躍の一年になることを期待します。組合員の皆様のより一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

最後になりましたが、組合員の皆様及びご家族の皆様にとって今年がご多幸と実りのある一年となりますことを祈念して、年頭のご挨拶といたします。

本社看護部と労使協議会開催

十月八日(木)、本社において、平成二十七年度看護部労使協議会を開催した。

本年度から病院看護部会を七月に開催し、医療施設における看護師、看護助手にかかる諸問題について意見集約を行い、ブロック代表者が数回にわたって協議を重ねてきた。

労使協議会では、まず認定看護師について、養成要綱の有無や教育機関受講中の取扱い、認定取得後の対応が各施設ばらばらであることから、処遇の統一について協議した。

時間外労働については、医療安全・感染・病棟会等の研修が時間外に行われた場合の時間外請求がなされていないことや、就業時間内の研修会開催について協議した。

また、看護助手については、近年業務内容が変化していることなどの現場の声を伝え、処遇の改善を協議した。

その他としては、夜勤ガイドラインに沿って、十二時間夜勤や長日勤が厳しいことなど、本社看護部の考えを確認した。

日赤新労は今回の労使協議会を踏まえて、引き続き看護職員が安心安全に働き続けることのできるよう処遇の改善を求め、さらなる活動を展開していきたい。

女性部副部長　山本邦博

血液センター部会 岡山市にて開催

十月二十四日（土）、岡山市「岡山コンベンションセンター」において、九単組二十九名の参加により、第二回血液センター部会を開催しました。

血液事業においては問題も山積しており、業務集約・広域事業運営体制による各単組の組織率の低下傾向が如実に表れていることから、第一回中央委員会で血液センター各単組の組織強化を図るため、開催が決定されたところです。

部会では、平成二十七年度要求書の血液センター改善事項を中心に、各単組が抱える問題点等を情報共有し、議論を深めました。

特に、製造部門に導入された自動化については、動画での説明によって、フルオートメーションではなく「自動」になった部分と、今までにない手作業の発生やシステム登録が求められる部分があり、データ授受時間等を含め、作業効率の低下となっていることなどを認識することができました。

今回の部会を踏まえ、日赤新労は引き続き血液事業本部に労働条件の改善を強く要求していきます。

また今年、年度内に二回開催した血液センター部会については、今後も開催を検討していくこととし、議論や情報交換をより活発に行って、職場の諸問題の改善を提言していきたいと思います。

最後に、翌日の施設見学でも大変お世話になった岡山県赤十字血液センター職員組合の皆様には深く感謝いたします。

組織副部長　河﨑勝自

第二回血液センター部会には、全国の日赤新労職員組合の方が岡山県に来られました。あまり立ち寄ることのない県らしく、皆様に少しでも岡山を知っていただけたことを嬉しく思っています。

初日の部会には、当単組から、執行部以外にも数名参加することが出きました。普段関わることのない部署や職種の方々との意見交換で、それぞれの業務の問題点を知ることはとても勉強になりました。また、他センターとの違いに、参加者一同驚くことばかりでした。

当単組はなかなかこのような会議に参加することが出来ないので、今回地元で開催され、多くの職員が他県の職員の方々と意見交換出来たことは、今後に活かすことのできる貴重な場となりました。

翌日は当センターの施設見学及び前日に引き続き意見交換会を行いました。私たち岡山県赤十字血液センター職員組合は看護師の若い執行部メンバーばかりなので、今後もこのような会議を通して精進していきたいと思います。

岡山県赤十字血液センター　書記長　大森友梨穂

初心者研修会報告
—第５ブロック—
テーマは「アウトドア」

鳥取赤十字病院職員組合

第五ブロックでは、十月三十一日、十一月一日に鳥取県西伯郡において、初心者研修会を開催しました。

単組から新人十名の参加があり、執行部・本部の講師陣も含めて合計二十八人で研修会を行いました。

今回、企画の段階で考えたテーマは「アウトドア」。自然豊かな鳥取県では、思いがけない絶景を目にすることが少なくありません。そんな大自然を体感する中で、新人同士が単組の枠を越えて親睦を図ってもらえればという思いで企画しました。

場所は、豊かな水を湛える緑水湖と緑溢れる山々に囲まれた緑水園。朝に夕に移り変わる自然の風景の中で、のんびり、ゆったりとした時間を過ごすことができる場所です。

初日は三チームに分かれて、山本中央書記長による労働に関する講義を、クイズ形式にてわかりやすく説明していただきました。終始笑い声が絶えない研修となり、楽しく勉強することができたと思います。

夕食には猪肉を食べ、けん玉等を使用したゲーム大会も行いました。その後、各単組執行部と新人組合員がグループに別れ、施設や職場で日頃感じている疑問点や問題点を話し合いました。新人組合員は普段話せないような話をすることができ、有意義な時間となったのではないでしょうか。

二日目は、同施設内にある体験工房にてアロマキャンドル作りを行いました。

ヤクルトの容器を加工し、その中に芯を固定。溶かしたロウと香りの液を流し込み、時間をおいて冷却して固めていきます。どの香りにしようか、どの容器にしようか、ラッピングはどうしようか等、悩みながらもこだわりのつまったキャンドルを完成していました。

最後に、多忙なスケジュールの中、講師としてお越しいただいた山本中央書記長、山本中央執行委員に心から御礼申し上げます。

—第３ブロック—
知多方面へのバスツアーを企画

十一月七日（土）、第三ブロック初心者研修会が開催されました。今回の担当は名古屋第一赤十字病院従業員組合で、愛知県の知多方面バスツアーも兼ねた研修会が企画されました。

まず初めに、バスの移動中に「労働組合とは」と「給与のあらまし」について私が講義を担当し、お話をさせていただきました。今回も入社して一年から三年ぐらいの若い方々が多く参加され、真剣に話を聞いてくださいました。

目的地に到着して、まずは碧南市にあるみりん工場でみりん造りの見学を行いました。その後、そこから少し移動して、親睦会会場の「魚太郎」というバーベキュー会場でグループに分かれて食事を楽しみました。今回は野外会場だったのですが、天候があまり良くなかったのが残念でした。それでも海の近くなので魚介類が沢山あり、皆さんは満足されたようです。

親睦会が終了し、次に知多半島で有名な「エビせんべいの里」に向かいました。さらに、そこからまた常滑に移動して、「招き猫の絵付け体験」をしました。

今回の企画は内容も盛りだくさんで、新人の方々には大変喜ばれる研修会だったと思います。担当単組並びに参加された組合員の皆さん、ありがとうございました。

中央副執行委員長　杉山　裕二

北から南から
秋のBBQ祭り

那須赤十字病院職員組合

那須赤十字病院職員組合では、十月四日（日）に「秋のBBQ祭り」を開催致しました。

場所は栃木県大田原市にある「ポッポ農園」。日本一長いミニSLが走っており、また、夏には魚のつかみ取り、秋には芋掘りが体験できる、土の香りや心地よい風を感じられる場所です。

当単組では、二〇一三年度からバーベキューを開催し、今年度で三回目となります。第一回の内容は、機関紙「日赤新労」第二三三号に掲載されています。参加対象者は組合員とその家族としており、二〇一三年度八十八名・二〇一四年度百二名・二〇一五年度百二十二名と年々参加者が増えております。

ゲームでは、万歩計振り・長靴飛ばし・ピンポン玉運びゲーム・紙飛行機飛ばしを行い、参加者全員が頑張り、会場は笑いと歓声に包まれました。

また、スーパーボールすくい・射的・わたあめ・ポップコーンといった縁日もあり、たくさんの組合員のお子さんたちが楽しんでいました。

執行部は、当日朝八時に集合し、テント張りや火起こしに奮闘しました。救護員を経験している執行部が多く、テント張りは御手の物(?)でした。家族を含めた組合員同士が、より近づける場になれるよう〝くみ愛〟バーベキューをこれからも続けて行きたいと考えております。

那須の冬は、温泉とスキー。素晴らしい自然があり、多くの楽しみが詰まっています。那須の冬はこれからです。是非遊びに来てください。

—第55回定期全国大会—

平成28年２月21日(日)～23日(火)
2/21　「損保会館」404号・405号
2/22・23「お茶の水ホテルジュラク」
東京都千代田区神田淡路町２－９

お茶の水ホテルジュラク